

AHW017-12

会場:展示ホール7別室3

時間: 5月26日12:00-12:15

霞ヶ浦湖面における蒸発量の多様性：(2)霞ヶ浦全域における蒸発量と湖心観測所の測定値との差について

Variability of evaporation over Lake Kasumigaura:(2) difference between total evaporation of Kasumigaura and measurement

伊倉 宏弥^{1*}, 杉田倫明¹

Hiroya Ikura^{1*}, Michiaki Sugita¹

¹筑波大学大学院生命環境科学研究科

¹Grad. Schl. Life & Env. Sci., U. Tsukuba

衛星データと地上気象データによって霞ヶ浦湖面における蒸発量分布が推定された。蒸発量は大気温度や風速を霞ヶ浦周辺の気象観測所のデータを、地表面温度を湖心のフラックス観測所におけるデータを用いてバルク法によって推定された。これはLandsat-TMやASTERのセンサーから算出された地表面温度を基にしており、地表面温度の多様性は1-2℃程度以内であることが分かった。蒸発量分布の多様性の結果は湖面全域で平均878 mm/yであり、標準偏差は66.4 mm/yであった。この値は湖心観測所における測定値976 mm/yと比較された。

キーワード:蒸発量,接地層気象学,衛星データ,空間内挿

Keywords: evaporation, boundary layer meteorology, satellite data, spatial interpolation